

歯の欠損を補う「補綴歯科」 機能回復に優れたインプラント治療

歯は健康の基本。いつまでも自分の歯を失わずに守り抜きたいものだが、誰もが虫歯や歯周病などによって歯を失うリスクを抱えている。不幸にして歯を失ってしまったとき、助けの手を差し伸べてくれるのが、補綴歯科だ。インプラントを中心に、補綴歯科治療とのかかわり方を日本補綴歯科学会の古谷野潔理事長に聞いた。

歯を失って困るのは、見た目が悪いことだけではありません。ものが噛めない、飲み込めない、言葉が明瞭に発音できないなど、歯を失う前と比べて想像以上に

補綴歯科治療は
健康寿命の延長に
貢献する

日本補綴歯科学会理事長

古谷野
潔



こやの・きよし / 1955年福岡県生まれ。83年九州大学歯学部卒業。91年文部省在外研究院、アメリカ合衆国UCLA visiting associate professor。97年九州大学歯学部教授。2003年同大学歯学部付属病院長などを経て現職。日本補綴歯科学会理事長。九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座インプラント・義歯補綴学分野教授。

「補綴歯科」とは、歯科に通っている方にとっても耳慣れない言葉かもしれませんが、歯を失ってしまった場合に、クラウンやブリッジ、入れ歯、インプラントなどの人工物（「補綴装置」という）で失った歯を補い、歯が揃っていたときの働きを取り戻す重要な役割を担っている診療分野です。

補綴治療の2大問題を
解決するインプラント

失った歯を補う手段の代表的なものとして、クラウン、ブリッジ、入れ歯、インプラントがあり、いずれ

患者さんは苦しめられます。ものを噛んで食べられることは健康の基本中の基本です。歯を失った多くの方々が適切な補綴歯科治療を受けることによってQOLが改善されれば、平均寿命より7〜8年短いと言われている健康寿命を伸ばすことができるという期待ができます。補綴治療がいくつになっても健康で人生を楽しむために貢献できることは間違いありません。

も長い歴史と優れた治療実績を持っていきます。

この中でもインプラントは、入れ歯などとやや違った発想で作られ、この40年ほどの間に治療成績を伸ばしてきました。インプラントは、歯の抜けた顎の骨にチタン製の人工歯根を手術によって埋め込み、この上に人工の歯を作るか、入れ歯を固定する方法です。入れ歯では噛む力が5分の1程度になってしまふ場合もあります。インプラントは骨で支えるのでしっかりと噛むことができます。補綴治療では、噛む力をいかに支え、補綴装置が外れないように固定するかが問題ですが、インプラントはこの2点を同時に助けしてくれる、心強い仕組みです。

雑菌の多い口腔内から骨の中に向けて人工物を差し込むことから、開発当初、細菌感染を懸念する向きもありましたが、実際には、そのようなことはほとんど起こりません。また、インプラントの材料も改良が重

ねられ、最近では埋め込み手術後、周囲の骨組織に早くなじむようになり、インプラント治療全体の所要期間も短くなっています。

インプラントはいろいろな点で優れた治療法ですが、どんな治療も、補綴装置を付ければそれで終わりではありません。きっちり歯磨きをして口の中を清潔にしないと「インプラント周囲炎」という症状が起こり、インプラントを失うこともあります。患者さんが歯を失うに至った生活習慣を見直し、口腔内環境の改善を図り、他の歯を失う事態を防ぐのであれば、高いお金を払って治療した甲斐がありません。歯科医の説明をしっかり聞き、歯科医を選ぶ際は、ぜひ、そのような視点から歯周病やかみ合わせもケアできて長いスパンで患者に関わってくれる歯科医を選びたいものです。よい歯科医を選んで健やかな毎日を過ごしていただきたいと思えます。